

仙水小屋

毎日新聞旅行

9月30日～10月01日



当初の予定は、南アルプスの甲斐駒ヶ岳の北側にあるアサヨ峰から早川尾根の頭を縦走するはずであった。30日は全くの好天であったが1日の天気予報は雨または曇りであった。天気予報の通りに0時を回ったころからトタン屋根を雨が激しくたたく。風の音も強い。ヤバイと思う。東京にいるときはまだ全くの夏である。Tシャツに短パンが日常の姿である。この感覚で山の準備をしてしまう。夏山と同じようにTシャツに薄手の長そでシャツしか持ってきていない。しかも着替えはなし。防寒具といえば雨具に頼るしかない。雨にやられてはこれでは防寒用としては期待できない。この時期の山へ行く心がけは難しい、ということは何回も経験していることである。それでもこんなミスをする。山をなめていたとしか評価のしようがない。俺は、学校の成績は悪かったが、社会人としては結構優秀な方だと勘違いしていた。広いカリキュラムを与えられるとこなせないが、狭い分野を集中的にやれば良い社会人生活では適応力があると思っていた。しかしこの年になってようやく気が付いてきた。やっぱり俺はバカだった。そういったことに気が付くのは今回のようなことがあったときである。朝起きた時にメンバーの一人がツアーリーダーに、“私今日は止めます”と申し出たら、“私も”という人が出たので、私も“私も”と言ってしまった。結局半数くらいが小屋で待機ということになり、行った人も縦走はあきらめてアサ

ヨ峰のピストンということになった。

メンバーは男9人の女10人、珍しく男比率が高い。男の中にはよく合うFジタさん、白髪のGトウさん、他にも見かけた顔が多い。女にも見かけた顔が多いが、お互いに名前までは認識していない。ツアーリーダーは、奥谷さんがメインで、ベテランの増田さんがサブ。毎日新聞旅行では、アルプスクラスの山では現地の山岳ガイドを必ずつけるものと思っていたが、そんなことはない様だ。増田さんがツアーリーダーの時は、ほとんど現地ガイドはつけないそうである。言われてみて初めて気が付いた。

仙水小屋は去年の同じ日にも泊まっている。この時は甲斐駒に登った。まさか今年また泊まることになるとは思っていなかった。昨年と同じように夕食は外のテラスで食わせる。アイランドから送られてきたクジラの刺身などがでた。しかしここは350mlのスーパードライしか酒はないので、一本で止めておいた。



といったことで、二日間で1時間ちょっと歩いただけという超グウタラ登山になってしまった。ここのところ、長い登山経験のうちで初めてのことが多い。しかもグウタラな面で。ちなみに今回のメンバーの中で82歳というジイサマがいた。今回は待機組になったが、日常生活の中身を聞いたらビックリさせられた。スポーツジムのウォーキングでは時速7.5kmの設定で歩くという。ちなみに私の場合は時速6.2kmで汗びっしょりになる。7.5kmでは歩くスタイルでは到底対応できない、走る格好になってしまう。それほど背は高くないが、足のスタンスがものすごく広いのであろう。まあ、最近年寄りになった気が強く、いろいろな面で甘えが目立つ俺としては、反省しきりである。